7人が登壇

……町政を問う……

佐藤 勝徳 議員

■農業体験型修学旅行招致で交流人口の拡大を

町　長

□専門家の意見なども聞いて可能性を調査したい

議員　各自治体とも交流人口拡大が地域の活力維持につながるとして独自の施策を打ち出し積極的に推し進めている。そこで「交流人口百万人を目指して」次の点について問う。

　冬のイベント開催で交流人口の拡大を。

町長　雪と云う魅力ある資源を活用することは重要だが、誘客イベントとして取り組むことについては運営組織の確立や収支の見極めなどを含めて十分検討していきたい。

議員　自然を活用したイベント開催で交流人口の拡大を。

町長　町や民間団体主催により多くのイベントが行われ、町の魅力を多くの参加者が体験している。これらの主催者と連携しながら、事業内容や運営など改善を図るとともに、新規事業の開催も含め検討していきたい。

議員　スポーツ合宿の招致で交流人口の拡大を。

町長　町のスポーツ施設と宿泊施設相互の利用率を高めるため、まむろがわ温泉梅里苑で合宿プランを設定している。一般宿泊客との調整や体育施設利用者との調整に難しいものがあるが、合宿プランのPRに努めるとともに積極的に取り組んでいきたい。

議員　農業体験型修学旅行招致で交流人口の拡大を。

町長　町の農業を理解してもらうほか、経済効果の点でも魅力がある。商品としていかに構築するか、専門家の意見なども聞いて可能性を調査したい。

議員　生涯学習の推進について生涯学習の重要性と行政の役割についての所見を問う。

教育委員長　生涯学習を地域づくりに生かしたいと思っている人が多いことから、より多くの人が学習活動に楽しく取り組めるよう働きかけていくことや、社会的な要請にこたえられる学習の充実が必要である。行政は、一人ひとりの学習を支援し、学習機会の提供や施設整備の充実に努め町民と行政が一体となった学習活動を展開することが必要であると認識している。

古河市との交流で大はしゃぎの子どもたち

他の質問

- ●町職員の町内居住対策について
- ●生涯学習推進計画の現状と課題、そして充実のための方策について

ここがききたい――一般質問

佐藤　正 議員

■環境王国としての米コンクールの実施は

■人口減少と働く場の減少への対策は

町　長

□町独自の米コンクールを来年度から実施予定
□今後も誘致活動の強化と既存企業等に雇用創出支援を行う

議員　町独自の米コンクールの実施、そして環境王国としての米作りと販売について。

町長　平成29年度に本町において第19回米・食味分析鑑定コンクール・国際大会を開催するにあたり、28年11月にはプレ大会を経験し、そして29年11月の本番を迎える計画である。これを目指し、町独自の米コンクールを来年度から実施する予定である。各生産者、生産組織、集荷業者などにおいて、多様な販売戦略を構築しながら、多くの消費者に支持される安全・安心な食糧基地を目指す。

議員　山間部の農業用水路を活用した小水力発電と減反水田を活用した太陽光発電導入の考えは。

町長　現時点では、事業を実施するにあたり適した水利を見出すことはできないが、将来的に小水力発電技術の向上や水利施設の整備が進む中で、小水力発電の可能性を探ってまいりたいと考えている。太陽光発電の再生可能エネルギーの活用は低炭素社会、安心な持続可能な社会の構築の有効な手段と考えているので、多様な研究を重ねていく。

議員　当町の人口減少と働く場の減少対策は。

町長　企業誘致の取り組みについては、これまでの実施を踏まえ、またこれからの事例を参考にしながら、今後ともあらゆる機会を通じて誘致活動を強化していく。また、町内の既存企業等に対する雇用創出につながる支援も引き続き行っていく。

　ある企業では校舎を利用した農産物生産と、校舎の一部を集会施設として地域に開放し、憩いの場作りに取り組む予定と聞いている。

おいしい米づくりの名人たち